

令和6年度第1回仙台市外郭団体経営検討委員会
(令和6年8月2日開催)
議事概要

1	日 時	令和6年8月2日(月) 14:00～
2	場 所	日本生命仙台勾当台ビル2階会議室
3	出席委員	大泉裕一委員、西村一幸委員、水野由貴委員〔計3名〕
4	欠席委員	なし
5	事務局	総務局総務部行政経営課長、総務局総務部行政経営課行政経営係長、総務局総務部行政経営課主事〔3名〕
6	所管課	仙台市経済局産業政策部経済企画課長、仙台市経済局産業政策部経済企画課企画調整係長、仙台市経済局産業政策部経済企画課主事、仙台市水道局総務部総務課総務係長、仙台市水道局総務部総務課総括主任〔計5名〕
7	該当団体	仙台市産業振興事業団事務局次長兼総務部長、仙台市産業振興事業団総務企画課主事、仙台市水道サービス公社専務理事兼事務局長、仙台市水道サービス公社総務課総務係長、仙台市水道サービス公社総務課職員〔計5名〕
8	次 第	
	1 議 題	外郭団体の経営状況について
	2 その他	
9	会議資料	
	次第	
		仙台市外郭団体経営検討委員会設置要綱
		仙台市外郭団体経営検討委員会付議要件
		仙台市外郭団体経営検討委員会付議要件該当状況(令和5年度決算)
		仙台市外郭団体経営検討委員会付議団体令和5年度決算資料(仙台市産業振興事業団、仙台市水道サービス公社)
		仙台市外郭団体の経営状況の評価結果(令和4年度決算)

事務局(総務局総務部行政経営課長)

これより、令和6年度第1回仙台市外郭団体経営検討委員会を始めさせていただきます。仙台市総務局総務部行政経営課長の石森と申します。本日はお忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

本委員会では、外郭団体の経営状況の判断、評価、必要に応じて経営改善策の策定に向けた提言等サポートを行うこととされております。外郭団体の経営状況を明らかにし、この場で頂いたご意見を取り入れながら経営の健全性確保に取り組んでいくことを目的としておりまして、委員の皆さまの専門的な知見を頂戴できればと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事進行につきましては、委員長、よろしくお願いいたします。

大泉委員長

ただいまから、本年度の外郭団体経営検討委員会第1回を開催いたします。

まず、事務局に人事異動があったということですので、ご紹介願います。

事務局(総務局総務部行政経営課長)

本日が今年度初めての集まりとなりますので、人事異動後の事務局職員について、ご紹介させていただきます。

行政経営課行政経営係長の大浦でございます。行政経営課担当の武山でございます。

以上でございます。

大泉委員長

議事に入る前に、本日の議事録に署名していただく委員を指名したいと思います。前回は西村委員にお願いしておりましたので、今回は水野委員にお願いしたいと思います。

水野委員

はい、承知しました。

大泉委員長

よろしくお願ひいたします。

それでは、本日の議題に入りたいと思います。

各外郭団体の令和5年度決算について、本委員会で定めた付議要件に該当するか否かを事前に事務局で確認していただいた結果、2団体が該当することになったということでございます。では、1番目の仙台市産業振興事業団につきまして、ご説明願ひます。

事務局（総務局総務部行政経営課長）

本日は、経営状況等に関する質疑応答を円滑に進めるために、団体所管課及び該当団体の職員も出席しておりますので、まずご紹介させていただきます。

（以下の出席者を紹介）

- | | | |
|-------------|-------------|-----|
| ・仙台市産業振興事業団 | 事務局次長兼総務部長 | 関 様 |
| ・仙台市産業振興事業団 | 総務企画課主事 | 村山様 |
| ・仙台市 | 経済企画課長 | 齋藤 |
| ・仙台市 | 経済企画課企画調整係長 | 鹿中 |
| ・仙台市 | 経済企画課主事 | 稲場 |

事務局（総務局総務部行政経営課長）

今回付議要件に該当した理由につきましては、団体所管課及び該当団体からご説明をお願いいたします。

仙台市産業振興事業団（事務局次長兼総務部長）

それでは事業団から、付議要件の該当部分について説明させていただきます。

まず1つ目、どの要件にどのような数値となって該当したかについて説明させていただきます。

令和5年度の当期経常増減額はマイナス1,404万1千円でございます。令和5年度末の正味財産合計額は9,610万4千円でございます。令和5年度の当期経常増減額が10年続くと仮定した場合、10年後の正味財産合計額はマイナス4,430万6千円となり、債務超過となるため、要件1に該当することとなりました。

それでは2つ目、要件該当の理由について説明させていただきます。

令和5年度は、以下の要因1により正味財産合計額が大幅に減少しており、例年の経常赤字の主たる発生要因である要因2に加え、イレギュラーな要因3によって経常赤字が大きな額となっていたため、付議要件1に該当することとなりました。

まず、要因1、建物の譲渡による正味財産合計額の減少でございます。

令和5年度末に、正味財産合計額の半額以上を占めていた資産価値約1億1,775万4千円の建物を市に譲渡したことにより、正味財産合計額が大幅に減少したものでございます。

次に、要因2、減価償却費による経常赤字の発生でございます。

令和5年度には、建物の減価償却費が約510万6千円、什器備品の減価償却費が約790万8千円生じており、これらが経常赤字の大きな要因となっております。仙台市への補助金の返納により収支差額が原則0円になるという当財団の財政の性質上、減価償却費は例年の経常赤字の主たる原因となっております。

また、支出の際は、事業団自己収入分から充当し、残りの部分に仙台市補助金を充当しております。

また、仙台市産業振興総合支援補助金交付要綱第18条に基づき、最終的な支出済額が確定した後、不用額の全額を仙台市に返納することとなっております。

最後に、要因3、施設管理運営事業における経常赤字の発生でございます。

施設管理運営事業では、令和4年度中に経常黒字が約795万9千円生じており、同額を余剰金として、令和5年度に繰り越しておりました。令和5年度中に、この余剰金約795万9千円を、令和5年度の当該事業の経常収益を超過して支出したため、令和5年度単年度では、当該事業において約795万9千円の経常赤字が生じております。

また、こちらについては公益法人における収支相償を満たすための対応とさせていただきます。

以上、簡単でございますが、まずは説明させていただきました。

大泉委員長

ありがとうございました。今のご説明や団体の事業計画に関して、何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

西村委員

原因としては、まさに今ご説明あった通りと思います。

まずは、仙台フィンランド健康福祉センター事業の事業創成国際館を令和6年3月31日付で閉館して、建物と備品を仙台市に譲渡し、1億1,265万円程固定資産除却損に計上したため、正味財産が急減しています。

2点目は、当期経常増減額。令和元年度は864万円の赤字。令和2年度は371万円の赤字。令和3年度は1,313万円の赤字で、令和4年度は35万円の赤字。その反動で、令和5年度は1,404万円の赤字。令和4年度と5年度を足して2で割ると700万円ぐらいということになり、継続的に赤字になっています。このまま行くと財産が目減りするのは間違いないので、公益事業としては、予定通り支出するとしても、他の収益でカバーするとか、公益事業の赤字圧縮を図るとかは必要だと思います。

3点目は、施設管理運営事業の指定管理料。前期に795万円残っており、将来的には収支相償でゼロにしないといけないということで、令和5年度において、必要な支出を行い、2年かけてゼロにしたということだと思います。

4点目は、法人会計で、退職給付費用が前期より600万円以上増えている。これはもうヒトの問題ですので、ブレはあるのだらうと思います。こういった要因で、今回、前年に比べて赤字幅が増えたということでもよろしいでしょうか。まずその確認をさせていただきました。

その次に、令和6年度の収支予算書内訳表（損益ベース）を見させていただきました。人件費が増加していましたが、仙台市からの補助金で賄う予算になっています。それが実現するということであれば、それ以外は、過去の実績からして、予算は妥当と判断できると思えました。

そのため、当期経常増減額は、予算ベースですが、377万円の黒字というのはかなり確度が高いのではなかろうかと想定しております。このような認識でよろしいでしょうか。

仙台市産業振興事業団（事務局次長兼総務部長）

はい。

西村委員

私の方の確認は以上でございます。

大泉委員長

ありがとうございました。水野委員何かございますか。

水野委員

特に確認事項はありません。

大泉委員長

ありがとうございます。
こちらの団体では、投資有価証券をお持ちということですが、満期保有ではないのですか。

仙台市産業振興事業団（総務企画課主事）

原則満期保有としています。

大泉委員長

収支計算書の投資有価証券償還収入は、予算ではゼロですが、決算で128万円計上されています。計上に至った経緯を教えてくださいませんか。

仙台市産業振興事業団（総務企画課主事）

令和5年度の途中で、以前まで持っていた国債が満期を迎えまして、その債権金額と取得価額の差額を、投資有価証券の償還益として、経常外収益として計上したのになります。

大泉委員長

はい、分かりました。ありがとうございます。
他に無いですか。

西村委員

今の続きですが、今回、福岡県債に変えたということですが、なぜ福岡県債だったのですか。

仙台市産業振興事業団（総務企画課主事）

福岡県債に変えた理由は、一番条件の良い債権を募集しまして、そのタイミングで一番利回りが良かったものが福岡県債だったという経緯でございました。

大泉委員長

はい、ありがとうございます。
他に何かございますか。無いようでしたら、付議された団体の評価について議論したいと思っておりますので、ここで仙台市産業振興事業団の皆様と仙台市経済企画課の皆様にはご退席いただきたいと思っております。ご出席ありがとうございました。
それでは、配布資料中の令和4年度の報告書をご覧ください。今年度も同様のものを取りまとめることとなります。2ページの「4 評価結果」の表にありますように、当該団体が1から4までのどれに該当するか、ということについて審議したいと思っております。

西村委員

要件1に該当した理由は、全て臨時的な要素と考えます。
固定資産除却損について、事業が終わったために臨時的に発生してしまったことで、正味財産が急減したこと。
指定管理料について、本来は每期ゼロにしておくところ、令和4年度に795万円プラスになっていたため、令和5年度に収支相償するために、あえてお金を出して計画的にマイナスにしたこと。
この2つがあったので、たまたま当期経常増減額を10倍すると債務超過になりますが、令和6年度は黒字予算になっていますし、これが実績に近い予算となる確度は、結構高いと思えます。予算通りに行けば、今後は付議要件のどれにも該当しなくなることが想定されますので、「4 著しく経営状況が悪化しているとはいえない団体」で妥当ではないかと思えます。

大泉委員長

西村委員、ありがとうございました。
水野委員、何かございますか。

水野委員

固定資産について少し気になっていましたが、仙台市への譲渡というところが納得できましたし、指定管理料も、先ほどの投資有価証券も、きちんとした判断のうえでのものである、ということが分かりましたので、私も「4 著しく経営状況が悪化しているとはいえない団体」の判断でよろしいかなと思います。

大泉委員長

水野委員、ありがとうございました。
私も「4 著しく経営状況が悪化しているとはいえない団体」でよろしいかと思えます。
それでは、該当団体について評価結果の結論が出ましたので、あとは報告書をまとめる作業となります。報告書の案については、私と事務局で調整を行った上で、委員の皆様へ送付し、ご確認いただくということよろしいでしょうか。

西村委員

はい。

水野委員

はい。

大泉委員長

よろしく願いいたします。
では、2 番目の仙台市水道サービス公社につきまして、ご説明願います。

事務局（総務局総務部行政経営課長）

まずは団体所管課及び該当団体の職員をご紹介します。
(以下の出席者を紹介)

- | | | |
|--------------|------------|-----|
| ・仙台市水道サービス公社 | 専務理事兼事務局長 | 高橋様 |
| ・仙台市水道サービス公社 | 総務課総務係長 | 熊谷様 |
| ・仙台市水道サービス公社 | 総務課職員 | 高橋様 |
| ・仙台市 | 水道局総務課総務係長 | 古瀬 |
| ・仙台市 | 水道局総務課総括主任 | 並木 |

事務局（総務局総務部行政経営課長）

今回付議要件に該当した理由につきましては、団体所管課及び該当団体からご説明をお願いいたします。

仙台市水道局総務部総務課（総務係長）

水道局総務課より、付議理由についてご説明させていただきます。

仙台市水道サービス公社につきましては、令和5年度決算において付議要件の5番目に該当したところでございます。

令和5年度末の数値を確認しましたところ、当期経常増減額について、令和3年度がマイナス485万6千円。令和4年度がマイナス873万8千円。令和5年度がマイナス894万6千円と、3期連続でマイナスとなりました。

また、各期のいずれの比較におきましても改善傾向が見られなかったため、付議要件に該当することとなったものでございます。

要因といたしましては、令和5年度は、公益目的事業のうち給水装置工事の設計図書等の作

成業務におきまして、受付件数の多くを占める戸建住宅の件数が減少したことが主な原因であると考えております。

戸建住宅の受付件数が減少する一方で、中高層物件では受付件数が増加しておりますが、戸建住宅よりも作図の処理に時間を要するため、職員の超過勤務にかかる費用が増加しております。

対応といたしまして、まず収入増の取り組みについて、現在の設計手数料はこの30年間据え置いておきまして、社会の情勢とともに複雑化している設計図書の作成等に必要なコストを反映できていないものと認識しております。このことについては引き続き詳細分析を行いまして、最終的な手数料改定に向けた取り組みを進めて参ります。

次に、コスト削減の対策といたしましては、作図作業の見直しや、相互バックアップ体制、そして人材育成の強化により、作図にかかる平均時間を低減することで、業務費用の軽減をさらに推進して参る考えでございます。

説明は以上でございます。

大泉委員長

ありがとうございました。今のご説明や団体の事業計画に関して、何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

西村委員

経常収益は、排水設備設置に係る確認申請等受付業務及び現地確認業務、地方公共団体等から委託を受けて行う上下水道事業に関する事業、この2つが、予算と実績で大きく乖離しています。

当期経常増減額は、会計別に見ますと、公益目的事業会計が972万円の赤字。収益事業等会計が271万円、これがプラスになっているのは非常に大きいと思います。法人会計は151万円の赤字で、全社的には894万円の赤字になっています。

公益目的事業と法人維持費の赤字部分を、収益事業で賄いきれていないため資産を食いつぶしていく状態になっています。

一番問題と思われるのが、経常費用に占める人件費の割合が非常に高いという点です。役員報酬、給料、手当、福利厚生費、退職共済掛金そして退職給付費用を人件費と呼ばせていただきますが、経常費用に占める割合が、前年度は77.3%、当年度は79.8%で、8割に迫る勢いです。先ほどの超過勤務手当の影響もあるかなと思います。全体として経常費用総額自体は増えていないのに、人件費だけ特出している。前年に比べて1,747万円ほど増加しており、少し問題かなと認識しております。

その原因としまして、職員の中には正社員だけではなく、いわゆる仙台市のOB職員の方が多数含まれているという点が大きいと思われ。予算上は全部正社員で組んで配置しているということですが、実際にはそれで賄いきれないので、OB職員や業務補助職員の人も業務に配置しているため、予算と実績はどうしても乖離してしまっているということなのだろうと思います。

その結果として、最初は124万円の黒字予算にしているのに、結果としては894万円の赤字になってしまう。そうすると、予算の精度は大丈夫なのかというのが、もう一つの問題と思います。

令和6年度の収支予算を見させていただきましたが、予算の組み方が、前年度の予算額を踏襲しているように見えます。本来ですと、前期実績をベースにして積み上げて予算にしていけばいいかと思うのですが、前年度の予算とほぼ同じような予算を組んでいますので、前期実績を見ているというよりは、前年度の予算を踏襲しているようにしか見えない、という点が少し問題かなと思います。

収支予算書の中では、当期経常増減額が124万円。これは前年と全く同じ数字です。そうすると、業務体制に変化がないのであれば、実績に近い結果がまた出ることが想定され、予算は一体何のために作っているのか、というのが重大な問題に思えます。

少なくとも令和5年度の中で、予算と実績がかなり乖離していた事業については、令和5年度の実績をベースにして、令和6年度の予算を組むべきではなかったのか。そうすると、黒字

ではなくて、若干赤字予算だったのではないか。果たして予算管理がしっかりされているのだろうか、という懸念があります。

できれば、今後、最初から黒字ありきではなくて、頑張れば実現可能という予算を組んで、予算管理の確度を高めていただきたいと思います。

また、先ほどの人件費の話に戻りますが、当期の経常増減額を改善するためには、この8割の人件費を何とかしないといけないので、人件費総額をいかに圧縮するかが今後の課題と思います。

人材育成は急務で、作図に要する時間をなるべく短縮するための手立てをしていきたいというお話がありましたが、その通りと思います。適正な人員配置を行って、より効率的に時間を使っていくためには、まずは若手の職員を積極的に採用した上で、せっかくOBの職員がいっぱいいらっしゃるの、そのOBの職員に若手の育成を任せ、スキルの伝承を徹底的に行っていく。現場に行くだけでなく、若手の指導も行うことによって、若手もOBと同じようなレベルで仕事ができるようにシフトしていければ、時間外の業務が発生したとしても、若手の元々の賃金ベースはそんなに高くはありませんので、人件費総額としては圧縮できる傾向になっていくのではないのでしょうか。そのような形での人材育成もぜひ検討していただけたらと思います。

私の確認は、そのような感じですが、何か間違っている点がありますか。

仙台市水道サービス公社（専務理事兼事務局長）

人件費が多いのは、どうしても業務の内容上、そうならざるをえない業務となっているところが大きいです。

先ほど、人材育成の話がありましたが、実は私どもはここ4、5年で20代の職員を10人ほど採用しています。ベテランの職員がどんどん退職して行って、若手が入ってきているので、そこで少し業務のパフォーマンスが落ちて、時間がかかっていた部分もあります。

西村委員

まだ育てきっていないということでしょうか。

仙台市水道サービス公社（専務理事兼事務局長）

そうですね。50代後半あたりの職員も結構いますので、そこでもうまく切り替わっていけば、という話を各課長としていて、研修等にも時間をかけて若手を育てていく方向で進めています。

予算と決算の乖離については、翌年度の事業について、トレンドや需要をなかなか掴みきれないところがあり、前年並みとしているところが多くなっています。先ほどおっしゃられたように、何とか達成できるような形の予算を考えて、進めていければなと思っております。

大泉委員長

ありがとうございます。水野委員何かございますか。

水野委員

どうしてもトレンドは読み切れるものばかりではないとのことですが、設計手数料については30年ほど改定がないとのことなので、適宜あるいは毎年等、ある程度のスパンで、もう少しコンスタントに時代に合わせて、柔軟に数量や原価計算の見直し等の対応をしていただけると、より早く目に見える形になるのかなと感じております。私からは以上です。

大泉委員長

水野委員、ありがとうございます。

私からは特に新しい意見等はないのですが、西村委員がおっしゃったように、人件費の割合が非常に高い労働集約型の団体になっておりますので、そういった構造を変えていかないと、今後、赤字幅が拡大し、支出超過の傾向が強くなるかと思っておりますので、そのあたりをご留意い

ただければと思います。私から以上です。

他に何かございますか。無いようでしたら、付議された団体の評価について議論したいと思いますので、ここで仙台市水道サービス公社の皆様と仙台市水道局総務課の皆様にはご退席いただきしたいと思います。ご出席ありがとうございました。

それでは、それでは、付議された団体の評価について議論したいと思います。

西村委員

先ほど団体さんからご説明があった通りで、まずは公益目的事業の赤字幅縮小のために、設計手数料の収益増加策を検討中であり、一方で収益事業の黒字幅拡大のためには、人件費を見直し、効率的な組織体制を検討しているということでした。

黒字予算から赤字実績になってしまうのはどうかと思いますが、赤字幅としては1,000万円までいっていないことですし、財産に問題があるわけではないので、予算のあり方についても少し精度を上げていき、改善傾向になっていくとよいかと思います。

結論としては「4 著しく経営状況が悪化しているとはいえない団体」で構わないかと思いますが、経過だけをもう少し見守っていく必要があるかと思いますが、できれば来年、参考までに資料の提出だけお願いできればと思います。

事務局（総務局総務部行政経営課長）

承知いたしました。ご準備いたします。

大泉委員長

西村委員、ありがとうございました。

水野委員、何かございますか。

水野委員

いろいろと改善案を考えていらっしゃるようで、可能性も低くないのではないかと印象がありましたので、私も経過を見たいというのがあり、「4 著しく経営状況が悪化しているとはいえない団体」で問題ないかと思います。

大泉委員長

私も「4 著しく経営状況が悪化しているとはいえない団体」で構わないと思います。

約800万円程度、継続して赤字を計上しており、これが拡大すると状況が変わってくるかと思いますが、やはり今後の決算の推移を見ていきたいという段階であるかと思いますが。

それでは、結果として、仙台市水道サービス公社につきましては、「4 著しく経営状況が悪化しているとはいえない団体」ということでよろしいでしょうか。

西村委員

はい。

水野委員

はい。

大泉委員長

他に、何か付帯的なご意見などありますでしょうか。

西村委員

ありません。

水野委員

ありません。

大泉委員長

それでは、該当団体について評価結果の結論が出ましたので、あとは報告書をまとめる作業となります。

最後に事務局から連絡事項等ございますか。

事務局（総務局総務部行政経営課長）

報告書についてですが、後日、事務局から案をお送りさせていただきたいと考えておりますので、ご確認の方よろしくお願いいたします。

大泉委員長

それでは本日の委員会はこれで終了といたします。お疲れ様でした。

【署名】 委 員 長

大泉裕一

議事概要署名委員

水野由貴
